

2021年7月12日

長崎県知事 中村法道 様

石木ダム建設工事をただちに中止し、 無条件で住民との対話を実現することを求める要望書

いしきを学ぶ会実行委員会
世話人 森下 浩史

長崎県は、“故郷に住み続けたいだけ”という川棚町川原地区住民の願いを踏みにじって、石木ダム建設工事を強行し続けています。

私たちは、4月26日、「長崎県の3大悪政に抗議する4.24鉄橋共同街頭宣伝集会」で採択した「集会宣言」を県知事に提出し、集会参加者一同の声として、石木ダム建設について、「県民に納得のいく丁寧な説明をすること」を要望しました。

しかし、知事は、県民に対して丁寧な説明をする場を設けるどころか、ダム建設で水没する川原地区住民に対してすら納得のいく説明をしないまま、建設工事を続けています。また、「行政代執行も選択肢のひとつ」として、住民を強制排除する姿勢を示し続けています。

水没予定地域で暮らす住民の理解が得られないまま、住民を強制的に排除してダムを建設した事例は、これまで全国どこにもありません。知事は、県政史上最大の汚点となることを、あえて実行するつもりなのでしょうか。

このところ長崎県は、「知事と住民との対話」を口にしながら、川原地区住民とのやり取りを重ねているようですが、建設工事を続行しながら話し合いを求めるのは、多くの県民には、まさしく「左手にナイフ、右手で握手」の形容がピッタリな、理不尽な対応にしか見えません。知事が真摯に住民との対話を望んでいるのであれば、ただちに建設工事を中止し、無条件で住民との対話を実現させるべきです。

私たちは、中村知事に以下のことを強く要望します。
＜県知事はただちにダム建設工事を中止し、無条件で住民との対話を始めること＞